国立がん研究センター
希少がんセンター

肺神経内分泌腫瘍

（はいしんけいないぶんぴつしゅよう）

※内容を簡素に記載しております。詳しくは HP をご覧ください。

肺神経内分泌腫瘍について

神経内分泌腫瘍の原発部位は消化管についで肺・気管支が多く、約 30%です。神経内分泌細胞から発生する腫瘍は、悪性度に応じて、小細胞がん、大細胞神経内分泌がん、非定型カルチノイド、定型カルチノイドに分類されます。

- 小細胞肺がん：患者数が多いので、独立した治療法が確立しています。
- 大細胞神経内分泌がん：非小細胞肺がんに分類されますが、小細胞肺がんに準じて治療されることも多いです。
- カルチノイド（定型・非定型）：転移する患者も少ないこともあり、他の部位から発生したカルチノイドに準じて治療をします。

診断は腫瘍を顕微鏡でみたときの形や、細胞のタンパク質の特徴で判断します。悪性度（小細胞肺がん＞大細胞神経内分泌がん＞非定型カルチノイド＞カルチノイド）と予後は一般的には相関しますが、個人差が大きいことに留意する必要があります。

●神経内分泌腫瘍（NET*）についてはこちらをご覧ください。

https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/about/neuroendocrine_tumor/index.html

●さまざまな希少がんの解説についてはこちらをご覧ください。

https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/about/index.html